

平成 23 年度第 2 回うらやす市民大学運営委員会議事要旨

- 日 時 : 平成 23 年 9 月 9 日 (金) 午前 9 時 00 分～10 時 30 分
- 場 所 : うらやす市民大学受講室
- 出席者 : 古在委員長、山内副委員長、宮崎委員、阪本委員、杉村委員、武田委員、高橋委員、山本委員、東委員、中山委員、織戸委員、伊藤委員
- 事務局 : 岩波事務長、増田主査、一戸主任主事、林事務局サポーター

■会議次第 :

- (1) 開会
- (2) 委員長挨拶
- (3) 議題
 - ・平成 23 年度授業科目応募者の選考方針について
 - ・うらやす市民大学運営委員改選について
- (4) 閉会

■議事概要 :

●平成 23 年度授業科目応募者の選考方針について

□事務局説明

- ・7 月 15 日から 8 月 25 日まで 40 日間、第 4 期生の応募をした。今回は応募状況の報告とその選考方針について議論いただき、方向性を出して頂きたい。応募者数が 244 人で前回第 3 期と比べると 17 人増えている。内訳は在校生が 184 人、新規生が 60 人、これまでの応募の推移については資料の表のとおりとなっている。応募傾向は震災後初めての募集ということで震災の影響を想定していたが結果としては前回より応募者数が増加した。このことは 4 月～9 月の間、運営委員の方々や事務局サポーターの方々が中心となって学生自主企画講座、市民プレゼンツ講座を 34 回開催いただいた。このようないろいろな企画、イベントが自主企画等が空白期間を埋めて頂いた。内容としては応募傾向に偏りが見られる。受講科目や、受講生の年齢層や、経済・高齢者等が多く新規開拓の子育てが 9 名と偏りが応募者数について震災に伴い、これまでも市域の都市基盤復旧を最優先事項とするため、平成 23 年度予算を再配分することとなった。市民大学は当初予算費の 31.9%減となる。今後さらに予算縮減がある可能性もある。31.9%減の主な内訳は、授業縮小に伴う講師料の削減。予算上、今年度開講できる授業数は概ね 100～120 授業。
- ・平成 22 年度後期授業の積み残し授業(6 授業)については、5 月 28 日から 6 月 11 日に実施予定。
- ・平成 23 年度 1 年制を予定していたが、半年制にせざるを得ない。
- ・10 月～3 月までを授業期間とするため、学生募集期間を 7 月 15 日～8 月 25 日とする。

- ・半期制に伴うカリキュラムの再編成は6月中旬までに各コーディネーターと調整し行う。
- ・授業科目再編成に当たっては、今回の震災を踏まえた授業科目を優先にするが、従来からの「気づきの科目」もバランスよく編成していく。
- ・短期間での編成を考慮し、基本的には当初開講予定科目(17科目)を精査する形式にする。
- ・事務局案は、「平成23年度授業科目再編(案)」のとおり。この再編に当たっては、旧カリキュラム検討部会委員の意見をもとに作成している。

□カリキュラム検討委員説明

- ・再編せざるを得ない状況を受け、急遽、臨時カリキュラム検討委員会を5月10日に開催した。
- ・1年制から半期制への移行、協働科目の延期等、当初の提案どおりできなくなったことは了解した。
- ・科目について、「緊張感がない。もっと震災復興などを意識した内容にならないか。」との意見がでた。宮崎先生から名称に「創る」や「行動する」をつけ、「震災」や「復興」を意識することができるとの提案をいただいた。
- ・委員から「浦安ブランドの復活をテーマとした授業を作ってみてはどうか。」との意見があった。近日中にカリ研からシラバス案を提出したいと考えている。

□主な意見（委員長：長、委員：委、事務局：事、カリキュラム検討委員：力）

委：震災復興、あるいはこれからの出発を意識した名称に変更することで緊張感をもたせることができるのではないかと考える。提案する科目名称は、主題・副題構成になっている。主題は「創る」、「描く」、「行動する」などのアクションを、副題は、主題を通じてどういう浦安をつくるかという形式になっている。

長：大学なので、震災復興に偏らず、バランスよく知的レベルを高めることが必要ではないか。とくに山内先生の授業科目ではチュニジア紛争をシラバスに取り入れられ、見事に言い当てられており、先見の明があると思う。阪本先生の科目は防災とも関連がありそうだが。

委：市民大学は市の組織であるので、震災復興を担うことも必要かと思う。「街としての魅力」が浦安にとって非常に重要であったが、今回の震災でそれも失われつつある。私の科目では、浦安の住みがいのある街づくりをテーマに、浦安の街のブランドあるいは、魅力を復興するといった内容にすることを考えている。

長：わたしの担当している「ライフデザイン」はこの中で一番の削減対象科目ではないだろうか。名称に「創る」など入っているわけではない。むしろ今こそ、協働科目を実施したほうがよいのではないか。市民大学として、復興プログラムを中心に実施するのか。それとも市民大学の方針で従来どおりの授業科目を実施するのか。復興プログラムについては、学生が自主的に行うのか。みなさんはどのようにしたほうがよいと考えられる

か。

委：個人的には、10月からの開講に伴い、1年制でなくなってしまったことが非常に残念。可能であれば10月～翌年9月までの1年制で開講していただきたい。そうすれば、当初の内容を10月から移行することで対応可能ではないかと思う。ただ、年度をまたぐことを勘案すると難しいとも思う。なので、来年4月からの授業科目については、当初計画していたカリキュラムを実施してはどうだろうか。今回については多少、震災復興を意識した科目があってもいいのではないか。

委：私の授業科目は「浦安」と「復興」の結びつきが薄いと自覚している。私の科目こそ中止、あるいは延期の対象となるのではないかとも思う。ただ、宮崎先生がタイトルを工夫してくださったので、この名称で担当講師がついてきていただければ、開講は可能かという印象をもっている。

委：市民大学の授業科目は、少しずつ修正を加えながら作り上げていった内容となっているので、これを根本的に作り変えて震災復興プログラムを作成する必要はないと思う。ただ、震災後、市民に市民大学が何をしているのかが見えるところなので、宮崎先生が科目名称を変えてくださって、且つ、講師がそれを意識していただければいいのではないだろうか。

長：運営委員会で方向性を決定し、各コーディネーターに承諾を受けるということによいか。

委：協働の科目は震災後の浦安において重要だと思うが、本当に延期にしてしまっているのか。

事：事務局としても協働科目の必要性について感じている。今回は、コーディネーターや各講師との日程調整により開催は難しいが、その代わりとして市民大学入門において全受講生を対象に講義を行う予定でいる。

長：今回の震災を市民目線で記録していくことが必要ではないか。

カ：これから検討する「うらやすブランドの復興」の中で取り入れていきたい。

●学生会設立準備委員会の検討状況について

□山本委員から説明

- ・新年度発足に向けて検討を始めたが、震災があったこと、また話し合いの中で、拙速に進めるのではなく、十分に検討した上で決定しようということになった。
- ・学生会は「学生の意見を大学運営に反映させること」、「学生間の親睦・交流を深めること」の大きく2つの役割を担うことを目的としている。
- ・前期期間市民大学を有効活用するため、市民プレゼンツ講座・自主講座を開催する。
- ・学生準備会主催で甚大な被害がでた東北地方の野菜即売支援活動を行う。
- ・9月までに学生会のめどに検討を進める予定。

●市民プレゼンツ講座について

□仲澤カリキュラム検討委員から説明

- ・6月、7月、9月に週2回、10時～12時まで、2科目開催。
- ・6月のテーマは「共助」と「協働」。

□主な意見（委員長：長、委員：委、事務局：事、カリキュラム検討委員：カ、山本委員：山）

長：学生会と市民プレゼンツの関係はどうなるのか。

山：今回は学生準備会が市民プレゼンツ講座を主催する。今後については検討する。

長：学生会とは、大学が公認する組織なのか、それとも自主的な組織なのか。現役学生だけなのか、それとも同窓生も入るのかについても検討する必要がある。

委：学生会が市民プレゼンツを主宰することになったら、学生有志が主催することはできなくなってしまうのか。

山：私個人としての意見はあるが、まだ、準備会で議論されていないので、この場でお答えすることはできない。

長：市民プレゼンツは、学生が自主的に行っている活動のひとつの位置づけでよいか。

カ：それでいいと思う。

委：市民大学も開学から3年度経過し、そろそろ運営委員会で予算についても検討してみてもどうか。

事：市の予算編成については情報公開の対象となっており、概要を報告が必要ということであれば、拒むものではない。

委：「うらやすのブランドを回復する」は仲澤さんにまとめていただくということでよいか。

カ：今後カリキュラム検討委員で検討する。

以上